

日本図書館研究会

創立75周年記念式典
2021年度図書館学セミナー

The 75th Anniversary Conference and Seminar of
THE NIPPON ASSOCIATION FOR LIBRARIANSHIP

2021年10月30日

オンライン開催

ご挨拶

1946年11月に日本図書館研究会が創立されてから75周年を迎えました。それを記念した式典、図書館学セミナーは、昨今のCOVID-19の状況からオンラインで開催することといたしました。皆さんとお会いして75周年の場を共有できないことは残念ではありますが、遠方の方々にも参加していただきやすくなると、前向きに捉えたいと考えております。

午前中に開催する記念式典では、本研究会の元理事長である塩見昇先生に「日本図書館研究会75年の歩みを通して思うこと」と題した記念講演をいただきます。また、長年にわたり研究会を支えていただいた名誉会員、永年会員の皆様をご紹介します。

さらに、記念式典に引き続いて午後には開催する図書館学セミナーでは、鳥取県知事、総務大臣などを歴任された片山善博先生(現 早稲田大学政治経済学術院教授)に「コロナ禍における地方自治と図書館」という演題でご講演いただくとともに、日本図書館協会理事長、日本図書館情報学会会長にお集まりいただき、私を含めた3名で「これからの図書館と図書館員の専門性」をテーマに鼎談を行います。

オンラインという従来とは異なる形の催しではありますが、本日が本研究会75周年にふさわしい熱気ある内容をご参加の皆さんにお届けする時間となれば幸いです。

理事長 原田 隆史

創立75周年記念式典

【記念式典】		10:00～10:50
	司会：理事 谷合佳代子	
開会挨拶	日本図書館研究会理事長 原田 隆史	
来賓挨拶	日本図書館協会理事長 植松 貞夫 様	
	日本図書館情報学会会長 岸田 和明 様	
祝 辞 (ビデオメッセージ)	上海図書館館長 陳 超 様	4～5ページ
祝辞紹介		6～7ページ
名誉会員顕彰		8ページ
永年会員紹介		8ページ
	〈休 憩〉	10:50～11:00
【記念講演】		11:00～12:00
塩見 昇 氏 (大阪教育大学名誉教授, 元・本会理事長)		
演 題 「日本図書館研究会75年の歩みを通して思うこと」		9～11ページ
閉会挨拶	日本図書館研究会事務局長 松井 純子	
	〈昼食・休憩〉	12:00～13:00

2021年度図書館学セミナー

13:00~16:30

司会：研究委員 南 亮一

開会挨拶 日本図書館研究会理事長 原田 隆史

【講演】 13:05~14:35

片山 善博 氏 (早稲田大学政治経済学術院教授)

演 題 「コロナ禍における地方自治と図書館」 12ページ

〈休 憩〉 14:35~14:45

【鼎 談】 14:45~16:30

日本図書館協会理事長, 日本図書館情報学会会長および本会理事長による鼎談

テーマ 「これからの図書館と図書館員の専門性」 12~13ページ

日本図書館協会理事長 植松 貞夫

日本図書館情報学会会長 岸田 和明

日本図書館研究会理事長 原田 隆史

コーディネーター 筑波大学情報学群知識情報・図書館学類長 呑海 沙織

閉会挨拶 日本図書館研究会研究委員長 日置 将之

祝・日本図書館研究会創立75周年

原田隆史理事長および日本図書館研究会員の皆様へ

こんにちは。

まずは上海図書館を代表し、日本図書館研究会の創立75周年を心よりお祝い申し上げます。同時に、日本における図書館業界で働く皆さまにも、ご挨拶をお送りいたします。

日中両国は、一衣帯水の隣国関係にあり、互いの文化においても優れた共通点を持つパートナーです。日中双方の図書館も、これまでずっと密接で友好的な関わり合いを持ち、図書館学の研究理論や職務の実践における共通言語を用いたコミュニケーションを図ってきました。75周年を迎えた貴研究会は、図書館および図書館員関連の研究と実践を基本理念とし、イベントの実施やセミナーの企画、学術レベルの向上を積極的に行なってこられました。それによって得られた成果は、私たちが真摯な態度で研究を重ねてゆくべき、素晴らしいものです。20年以上の月日を、上海図書館との協力のために費やし、その間貴研究会が上海図書館のためにしてくださったご支持について考えると、私たちの胸は熱くなります。

貴研究会と上海図書館の交流は1999年に始まり、以来、双方による働きかけが行なわれてきました。当時、貴研究会の塩見昇理事長および私たち上海図書館の呉建中館長（当時上海図書館副館長）が、ひとつの心でリーダーシップをとり、上海市図書館学会と貴研究会の間で国際交流協定（1999年10月）が結ばれ、2001年から正式に交流がスタートしました。その協定の中で、論文を取り交わすことや学術セミナーイベントの計画が盛り込まれ、3年に一度、日中両国が順番に学術セミナーを執り行ない、双方から選出した代表者らが学術交流を図り、互いの学術刊行物に関連論文を掲載するようになりました。2001年から始まったこの日中間の交流は今年で21年目となり、合わせて6周期を終え、期間中に13回の国際会議も開催されました。これまで討議されたテーマとして、図書館と生涯教育、図書館の空間デザイン、図書館法、多様化する図書館サービス、図書館とデジタル人文学などといった、伝統的および前衛的な論題が取り上げられ、両国の図書館研究とサービスに新鮮な活力を注ぎ込む一助となってきました。

ここにおいて、私たちは上海図書館ととりわけ縁の深い、川崎良孝氏の大きな助力に心より感謝申し上げたいと思います。これまで長い間、川崎氏は私たち両国の相互作用が上手く働くよう、多岐にわたるプロジェクトに誠心誠意関わってくださり、様々な方法を講じながら双方の図書館職員、特に若い世代の職員たちが、研究や交流の機会を持てるよう尽力してくださいました。このような川崎氏の大きな働きがあったおかげで、論文を媒体とした学術交流や、

図書館職員らが直接交流する機会をこれまでずっと持つことができ、貴研究会に新たな風を吹き込み、発展性のあるチャンスを生み出すことにもなりました。それで、こうした働きにより恩恵を受けた全ての職員たちを代表し、川崎氏に心からの尊敬と敬意の気持ちを表したいと思えます。

残念なことに、2020年に新型コロナウイルス肺炎が全世界に広がり、様々な面における進展が妨げられてきました。その中には、2020年に日本で開催されることになっていた第14回日中図書館学セミナーといったイベントの中止も含まれます。コロナウイルスが流行り始めた時、上海図書館は世界各地のパートナーらから送られてきたメッセージを受け取り、その中には日本から送られた温かい言葉もありました。コロナウイルスが世界全体に拡大するにつれ、私たちも世界各地のパートナーに慰問のメッセージを届け、日本へは当時不足していたマスクや防護用品を寄贈する手配を進めました。

2021年、新型コロナウイルス肺炎の影響は未だ残ってはおりますが、私たち両国の友好関係を阻むものとはなっておらず、かえって未来への方向性を深く考えさせられる機会となっております。デジタル技術が超高速で前進し、インターネットの情報が入り乱れている今の世の中にあつて、図書館は、人と知識、人と情報、人と人、そして空間とコンピューティング・プラットフォームを結ぶ役割を担っています。伝統的な図書館が日進月歩の進展を見せている中、未来の図書館はどうなるのか、図書館はいかにしてサービスや読書の推奨をプロモートしてゆくべきか、人類による読書はさらにどんな可能性があるのか、情報と科学の恒久的追及にはどんな保障があるべきなのか、人類の運命としての共通利益はどのようにして実現するのか、といった意義あるテーマを、この先の協力関係の中で共に議論し、それらの答えを具現化させることを願っております。

2021年12月には、浦東区に位置する上海図書館東館が市民に開放されるという歴史的な時を迎えます。11万5千平方メートルの開放空間は、これまでの上海図書館を刷新するものとなり、同時にサービス能力を向上させ、国際的レベルへと昇華させてゆくことが急務となっております。それで、日本の図書館職員の皆様に対し、コロナウイルスが鎮静化した際の、上海図書館東館への訪問を正式にご招待したいと考えております。その際には、さらに多くのテーマを掘り下げて話し合い、友情を深める機会ともなることを確信しております。

最後に、日本図書館研究会の創立75周年を迎えられるにあたり、改めてお慶びを申し上げ、今後ますますのご躍進を心よりお祈りいたします。

2021年10月
上海図書館館長 陳 超

お祝いの言葉

拝啓

仲秋の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたびは「日本図書館研究会創立75周年記念式典・2021年度図書館学セミナー」のご開催誠にありがとうございます。新型コロナウイルス禍という困難な状況の下、オンラインでの式典およびセミナー開催にご尽力された関係者のご努力に敬意を表するものであります。

日本図書館研究会は、第二次世界大戦前に関西で活発に活動していた青年図書館員聯盟がその源流であり、第二次大戦終結後まもなく1946年に創設された、我が国でもっとも古い図書館研究団体であります。中でも『日本十進分類法』『日本目録規則』『基本件名標目表』の基を開いた青年図書館員聯盟の学統を受け継ぐ「目録の日図研」の通称は、図書館関係者に膾炙しているところです。また日図研に属する研究グループを中心とした活発な研究活動や研究大会・セミナーの開催、「図書館界」『本をどう選ぶか』をはじめとする研究出版物の出版事業など、我が国の図書館学・図書館情報学研究になされた貢献は称賛に値するものです。

この75周年に当たり、幾多の先人の業績を改めて顕彰するとともに、次の80周年、90周年、そして100周年に向け、我が国の図書館学・図書館情報学研究に関するなお一層の課題解決のための研究成果が、日図研の今後の活動から産み出されていくことを期待してやみません。

最後になりましたが、今回の式典およびセミナーのご盛会ならびに日本図書館研究会の今後のご隆盛を祈念いたします。公共図書館のみならず大学図書館についても、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

令和3年9月30日
大学図書館研究会
会長 呑海 沙織

日本図書館研究会創立75周年記念式典の開催を祝して

このたびは、日本図書館研究会が創立75周年を迎えられ、記念式典が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

昨年からの新型コロナウイルス感染症蔓延による混乱で、研究大会や研究例会等の開催に支障を来し、さまざまな活動が制約を受けたことと思います。その中でも着実に研究活動を継続され、今日の慶事を迎えられたこと、お慶び申し上げます。

貴会では、公共図書館、国立国会図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館等、図書館活動を広く研究対象とし、研究者と現場、ともに研究成果の発表の場を提供されており、図書館学の発展に多大なる貢献をされています。昨今は、学校図書館をテーマにした研究も数多く、大会での研究発表や機関誌での論文・提言等、大いに学びの参考とさせていただいています。図書館研究奨励賞に学校図書館をテーマにした論文がいくつも授賞されており、嬉しく思っています。

学校図書館法の改正で「学校司書」の文言が明記されたのは2014年のことで、専門・専任・正規の「人」の配置において、まだまだ後れをとっています。GIGAスクール構想による電子機器・電子端末を活用した授業、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の導入など、学校図書館が教育活動に直接的・間接的にその機能を発揮する場面は多々あります。

合わせて学校図書館も、他館種同様「図書館」であり、同等の図書館サービスが展開されるべきです。一例として、著作権法第31条対象の「図書館等」にも学校図書館を含むことが挙げられます。公共図書館と同様に、「授業」以外の利用者の興味関心、学びに対応する図書館サービスができることを望んでいます。

これからも、図書館のあるべき姿についてともに研究・研鑽を深めていきたいと願っています。

まだしばらくコロナ禍で従来の研究活動が行い難いですが、全国各地の日図研会員の皆さまがこれまで以上に連携し、多彩かつ多様な図書館の研究・実践を深めていただくよう期待しています。

2021年10月

学校図書館問題研究会

代表 狩野 ゆき

名誉会員

1456 柴田 正美 氏

1963年入会 在籍年数58年

1987～2008年度に本会理事を務め、その間編集委員長3期6年、図書館研究奨励賞
選考委員長2期4年など要職を歴任。また『大学生と図書館』『新・大学生と図書館』の
執筆・編集を担当されるなど、本会への多大なる貢献を認める。

永年会員(40年以上在籍会員)

〔会員番号〕	〔氏名〕	〔在籍年数〕	〔会員番号〕	〔氏名〕	〔在籍年数〕
1003	加藤 三郎	60年	2838	田口 瑛子	46年
1306	田中 修	58年	2849	高橋 瑛子	46年
1360	荒木 英夫	59年	2900	明定 義人	45年
1411	河井 弘志	58年	2906	深井 耀子	45年
1631	大越 朝子	56年	2934	大城 善盛	44年
1776	志保田 務	54年	2950	平湯 文夫	44年
1970	竹内 愨	53年	2978	門田 豊子	44年
2059	古川 肇	52年	2997	横山 桂	43年
2144	漢那 憲治	51年	3009	前田 章夫	43年
2325	山本 晃	50年	3013	前川 和子	43年
2377	川崎 良孝	50年	3021	竹島 昭雄	43年
2434	大滝 則忠	49年	3058	村上美代治	43年
2512	瀬島健二郎	49年	3068	土田 正	42年
2533	高橋 和子	48年	3101	後藤 暢	42年
2552	小舘 順二	48年	3132	渡邊 勳	42年
2575	坂本 博	48年	3172	佐藤 尚子	41年
2578	久保 恭子	48年	3176	山口源治郎	41年
2608	寒川 登	47年	3186	竹花 孝司	41年
2627	高橋 敏一	47年	3206	黒岩 弘之	41年
2660	中村 恵信	47年	3256	佐藤 毅彦	40年
2674	松岡 要	47年			

※敬称略 在籍年数は2021年10月末現在

【記念講演】

塩見 昇(しおみ のぼる)氏 (大阪教育大学名誉教授,元・本会理事長)

演 題 「日本図書館研究会75年の歩みを通して思うこと」

講演者紹介

京都大学教育学部卒業。大阪市立図書館司書を経て、1971年大阪教育大学専任講師、1980年同教授、1997年同教養学科長(併任)、1998年同附属図書館長(併任)、2002年同名誉教授。2002年から2005年まで大谷女子大学教授。1994年から2006年まで日本図書館研究会理事長、2018年より同名誉会員。2005年から2013年まで日本図書館協会理事長、2016年より同顧問。2016年春の叙勲で瑞宝中綬章を受章。

日図研75周年記念講演関係略年表

年月日		塩見関係
1927.11.15	青年図書館員聯盟発足 機関誌『図書館研究』発刊, 三大ツールの発表・刊行	
1943.6	青聯, 解散宣言 12月『図書館研究』終刊	
1943.9	聯盟を継ぐ「日本図書館研究会」を設立, 旧聯盟会員の 同志的連帯は続く	
1944.3	大阪大空襲 旧聯盟本部のあった間宮商店も焼失	
1945.8	敗戦	
1946.4	宝塚科学図書館で戦後初の研究会を開く	
1946.8	図書館講習会を開催	
1946.10.20	全国組織としての研究会創立をめざし創立発起人会 創立宣言を起草し, 全国の図書館及び図書館員に郵送	
1946.11.23	宝塚科学図書館を会場に日本図書館研究会の創立総会 開催 青聯関係者を主に18名が参加, 創立宣言・会則決定, 暫定役員決定	
1947.5	機関誌『図書館界』創刊号発行	
1958.4	地区研究グループ設置内規を制定	
1959.8	『図書館界』通巻50号(11巻2号) 特集「戦後日本における図書館学の発展／戦後図書館 界の歩み」	
1960.4		S:入会
1961.1	第1回図書館研究グループ合同集会 これが研究大会の初回	
1963	役員(理事)構成に世代交代のはしり	
1967	理事長選出が難航 研究大会に新機軸(共同研究, グループ研究重視) 以後のスタイルに	
1967.11	『界』100号特集「最近10年における図書館学の発展」 以後の50号特集へ	
1968		S:マッカーシズム
1969		S:評議員
1971	理事を9名から15名に拡大し, 若い世代が参加 日本図書館学会との合併論議が理事会で交わされる 「日図研と学会は違う」(塩見)	S:理事就任
1973.3	討論会「図書館学教育を考える」の開催, 図書館学教育 研究Gを設置	

1974-5	滋賀県立図書館の基本構想に関する調査を受託, 報告書提出	
1976.11	創立30周年記念大会 日本図書館学会研究大会と合同で開催	
1977	「研究例会」を新たな構想で再発足	S:研究委員長
1978.6	印刷カード, JAPAN MARC開発等に関して国会図書館へ要望書提出	
1982.9	愛知研究例会始動	
1983.5	評議員会開催に合わせて特別研究例会を企画	
1985	役員選挙で最初の女性理事誕生	S:事務局長
1986.4	天理から大阪への事務所移転に際し, 専用事務室, 専任事務局員を配備	
1986.5	公立図書館振興策の提起(『界』38巻1号) 日図協の政策づくりを補完	
1988	名誉会員推薦基準を決定 小倉親雄ら3名を推挙	
1990.4	研究グループ助成基準内規決定 森耕一の申し出を受け, 図書館研究奨励賞を設置	
1990.9	日本学術会議から学術研究団体として認定を受け, 加盟	
1990.10	『図書館界総索引』第1巻～第40巻 上海図書館学会との学術交流 桂林・香港への旅	
1992.11	森耕一理事長逝去 享年69歳	
1995		S:理事長
1996.11	創立50周年記念式典 『日本図書館研究会の50年』刊行 『図書館界総索引』第41巻～第47巻 ブロックセミナーを新規事業として推進	
1997	ホームページ開設	
1998	個人会員実態調査(『界』50巻記念) ⇒集計の報告とコメント(『界』50巻6号(1999.3))	
1999	上海図書館学会と学術交流の協定を結び, 国際セミナーなど開催 3年を1サイクルとし2001年度からスタート	
2004	誌上討論「公立図書館の果たすべき役割」(『界』56巻3号～59巻4号)	
2007.5		S:理事長退任
2010	志保田務「日図研と最近15年の“図書館界”」(『界』350号特集に掲載)	
2018	志保田務「日図研と最近10年の図書館界」(『界』400号特集に掲載)	
2020	全国的なコロナ禍の下で各種集会・会議のオンライン化が広がる	
2021	75周年記念若手座談会開催	
2021.10	創立75周年記念式典及び図書館学セミナー開催	

【講演】

片山 善博(かたやま よしひろ)氏 (早稲田大学政治経済学術院教授)

演 題 「コロナ禍における地方自治と図書館」

講演者紹介

東京大学法学部卒業, 自治省に入省。能代税務署長, 自治大臣秘書官, 自治省国際交流企画官, 鳥取県総務部長, 自治省固定資産税課長などを経て, 1999年鳥取県知事(2期)。2007年4月慶應義塾大学教授。2010年9月から2011年9月まで総務大臣。同月慶應義塾大学に復職。2017年4月早稲田大学公共経営大学院教授。併せて, 鳥取大学客員教授, 日本郵船株式会社社外取締役, 「デジタル文化財創出機構」理事, 「日本司法支援センター(法テラス)」顧問, 「角川文化振興財団・城山三郎賞」選考委員, 「活字文化推進会議」委員などを務める。

【鼎談】

日本図書館協会理事長, 日本図書館情報学会会長および本会理事長による鼎談

テーマ 「これからの図書館と図書館員の専門性」

日本図書館協会理事長 植松 貞夫

日本図書館情報学会会長 岸田 和明

日本図書館研究会理事長 原田 隆史

コーディネーター 筑波大学情報学群知識情報・図書館学類長 呑海 沙織

登壇者紹介

植松 貞夫(うえまつ さだお)氏

東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了。1980年図書館情報大学の創設時に助手, 以降助教授, 教授, 副学長を歴任。2002年筑波大学教授, 同図書館情報専門学群長, 2004年筑波大学附属図書館長, 2010年同大学院図書館情報メディア研究科長, 2013年同名誉教授。2013年から2018年まで跡見学園女子大学文学部教授。石狩市民図書館, 帯広市図書館, 金沢海みらい図書館など図書館建設に涉わる。2021年より日本図書館協会理事長。

岸田 和明(きしだ かずあき)氏

慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻博士課程中退。1991年図書館情報大学図書館情報学部(現筑波大学図書館情報専門学群)助手(文部教官)。1994年駿河台大学文化情報学部助教授。2002年同教授。2006年より慶應義塾大学文学部教授。この間2001年から2008年まで国立情報学研究所客員助教授および教授(兼任)。2004年から2010年まで放送大学客員教授(兼任)。2020年より日本図書館情報学会会長。

原田 隆史(はらだ たかし)氏

同志社大学大学院工学研究科工業化学専攻博士前期課程修了,慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻修士課程修了,同博士課程単位取得退学。1989年慶應義塾大学文学部図書館・情報学専攻助手,2002年同准教授,2011年同志社大学社会学部准教授,2014年同教授,2015年より同志社大学免許資格課程センター教授・同志社大学大学院総合政策科学研究科教授。2019年より日本図書館研究会理事長。

コーディネーター紹介

呑海 沙織(どんかい さおり)氏

大阪市立大学大学院創造都市研究科博士(後期)課程修了,博士(創造都市)。京都大学附属図書館等での図書館員を経て,2008年筑波大学大学院図書館情報メディア研究科助教。2011年筑波大学図書館情報メディア系准教授,2015年同教授,2021年知識情報・図書館学類長。現在,大学図書館研究会会長,超高齢社会と図書館研究会会長,日本図書館協会認定司書審査会委員,大和市文化創造拠点等運営審議会委員等。2009年より日本図書館研究会評議員。

[MEMO]

日本図書館研究会
創立75周年記念式典・2021年度図書館学セミナー
2021年10月30日

編集・発行 日本図書館研究会
〒550-0002 大阪市西区江戸堀2-7-32
ネオアージュ土佐堀205号室
TEL & FAX : 06-6225-2530
E-mail : nittoken@ray.ocn.ne.jp